

令和七年度 東京純心大学 看護学部看護学科

学校推薦型選抜試験（第二回）【小論文】

試験問題

試験時間 90分

注意事項

- ・ 解答は、解答用紙に記入すること。
- ・ 問題用紙及び下書用紙は、試験終了後回収する。

受験番号

令和6年12月15日

以下の文を読み、設問に答えなさい。

※問題文については、朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。

家族らのケアを担う「ケアラー」を社会全体で支えようと、藤沢市議会が条例づくりに取り組んでいる。同市は8年前にヤングケアラーの実態調査を実施し、それが国の全国調査につながった「先進地」。条例づくりを支えているのは、自ら「ケアラー」を経験した市議の思いだ。

「介護する人が仕事や趣味、友だち付き合いなどの『当たり前』をあきらめなくてはすむ。そんな社会をめざします」
竹村雅夫副議長(70)と西智議員(47)が4日、市役所で熱く語っていた。

2人は「出張パブリックコメント」と称し、市自閉症児・者親の会の役員会に出席して、6月に公表した「ケアラー支援に関する条例(素案)」について意見を求めた。

素案は18歳未満の「ヤングケアラー」だけでなく、40歳ごろまでの「若者ケアラー」、仕事をしながらケアをする「ビジネスケアラー」など、すべてのケアを担う人を対象とし、市は当事者が参加する協議会を設置し、支援計画を策定することなどをうたう。

ケアラー支援に関する条例は、2020年に埼玉県が全国で初めて制定して以降、各地に広がっている。藤沢市では議会主導で議員提案条例として制定をめざしており、その中心にいるのが、副議長の竹村さんだ。

元中学教諭の竹村さんは、日本ケアラー連盟(東京)の依頼を受け、16年に市立小中学校や特別支援学校の全教員を対象としたヤングケアラー調査を実現させた。

今回の条例案は、全会派に呼びかけて1年近く議論を重ね、識者を交えたシンポジウムなども開き、練ってきたものだ。原点には、3年前に34歳で亡くなった長女の存在があるという。

精神障害を患っていた長女はときに暴力をふるい、家族は崩壊の危機に直面した。「介護心中」という言葉も頭をよぎった。

だが、亡くなる2年前、市内のアパートで一人暮らしを始めたことを機に、家族と穏やかな時間を持つことができるようになった。市のケアスワーカーが、訪問看護やヘルパーなどの支援を受けながら生活する計画を提案してくれたからだ。

「家族だけで抱えなくていい、SOSを出していいんだと今も悩んでいる多くの人に伝えたい」
一方で、ケアラーへの支援を強調するあまり、ケアそのものにネガティブな印象を持たれないよう、条例案では心を砕いた。その思いを前文の冒頭にこうつづけた。

「人は、みな誰かから身体や心のケアをしてもらって生きています。人生の中では、誰もがケアをされる側にもケアをする側にもなりません。ケアは、人と人との関係をつなぐ大切な行為です」

ケアが大切だからこそ、担う誰かや家族を孤立させる社会であってはならない。
長女が、短い生涯をかけて教えてくれたことだ。

出典 足立朋子「亡き長女の壮絶な介護ケアラー 社会で支えて」(『朝日新聞』二〇二四年七月二二日)による

承認番号(24-3258)

設問

著者の主張を踏まえ、それに対するあなたの考えについて、具体的な経験や例を示しながら一〇〇〇字以内で論じなさい。